

2025年4月15日

社会連携講座ナースングデータサイエンス講座開設記念シンポジウム

日本看護協会・東京大学
社会連携講座
ナースングデータサイエンス講座

東京大学大学院 医学系研究科
ナースングデータサイエンス講座
林田 賢史

社会連携講座 ナーシングデータサイエンス講座

- 2025年1月1日、日本看護協会・東京大学により
東京大学大学院医学系研究科内に開設
- 協力講座
 - 健康科学・看護学専攻 看護管理学/看護体系・機能学
 - 公共健康医学専攻 臨床疫学・経済学

1. 看護に関する既存のデータ及びリアルワールドデータの
利活用によるエビデンスの創出
2. 看護の行為や効果の可視化を図る新たなデータベースの構築
3. 看護のデータサイエンス領域の人材育成及び活動支援
4. 構築した看護のデータベースの利活用の仕組み
(オープン化) の検討

看護界、医療界を取り巻く社会経済環境

1. サービス利用者の変化

- 医療・介護ニーズの複雑化、多様化、複合化
 - 国民の高齢化が進む
 - 介護が必要、かつ、複数疾患を有する国民の割合が増加
- 予防の重要性

2. サービス提供者の変化

- 医療・介護提供資源の不足
 - 医療・福祉業界におけるマンパワー確保の限界
 - ワーク・ライフ・バランス
 - 家庭内看護力、介護力の低下

3. 財政状況の問題（景気の低迷）

容易に解決しない問題にもかかわらず、
看護界は無謀にも丸腰で立ち向かおうとしている

看護資源の“適正”配置と生産性向上が必要

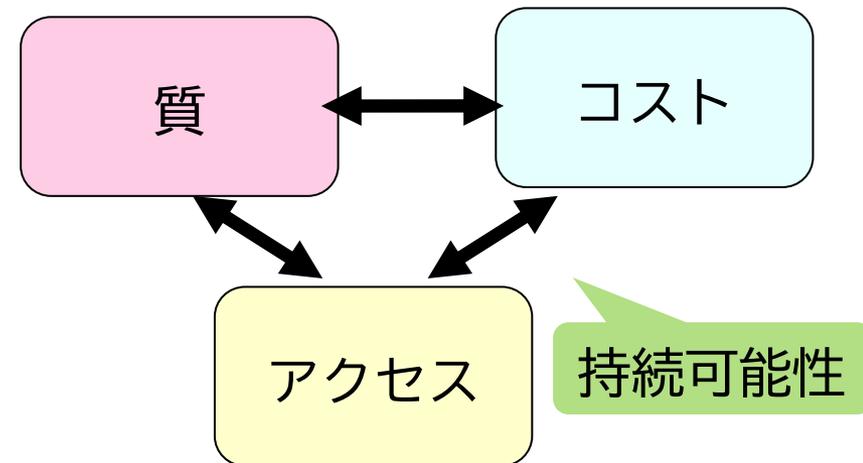
～国、地域、医療機関・事業所等の様々なレベル～

- 看護職の量・質(スキルや専門性等)
- 代替可能性(タスク・シフト/シェア、DX等)

看護界の問題は、

- ✓ 看護界だけに留まらない
- ✓ 社会インフラの問題
- ✓ 国民のwell-beingに直結

ヘルスケアサービスを評価する
3つの視点



“適正”を検討するにあたっての現状

- 量的データを用いた研究が（圧倒的に）不足
 - どのようなスキル・専門性を持った人材が、どこ（地域やフィールド等）にいるのか明らかでない
 - 看護ケアのタイミング・内容・量が数えられない
 - 看護職の貢献の程度がわからない
 - 看護職が困っていることを定量的に示せない

量的データを用いた研究

質的データを用いた研究



看護界の課題と当講座の役割

- 看護を可視化し、エビデンスを構築できる体制になっていない
 - 分析に使えるデータベースがない(少ない)
 - エビデンスを構築できる能力を有する人材がない(少ない)
- 
- 分析に使えるデータベースを構築
 - 科学的根拠に基づく政策形成(EBPM)の視点をもって臨床に還元できるエビデンスを構築できる人材を育成

看護学の研究で利活用可能な データベースの構築

- すでにあるデータを使えるようにする
- 複数のデータベースを結合する
- ないデータは作る
 - ✓ 記録（入力）
 - ✓ 定義の統一、標準化
 - ✓ 電子化

学際的な視点でNursing Dataと向き合える多様なサイエンティストの育成①

- 学際的・多領域統合的な能力
 - 看護・医療の知識
 - 臨床現場、地域特性の理解
 - 医療制度・政策に関する知識
 - 経済学、社会学、心理学、政策科学
 - 疫学、統計学、情報科学

学際的な視点でNursing Dataと向き合える多様なサイエンティストの育成②

- 多様な人材の育成（様々な領域で活躍）
 - データベース研究の専門家
 - データベース研究者と協働できる看護学研究者
 - 臨床でのデータの利活用を推進し、看護実践を言語化できる人材
（看護管理者・高度実践看護師との協働）
 - データを通じた看護実践の可視化に関心のある看護職
 - 政策課題に向けて必要なデータを理解できる人材

ナーシングデータサイエンスで支えるWell-being

ナーシングデータを用いた 看護の可視化

- 看護職の貢献
- 看護界の課題

Well-beingの向上

- 個人・家族、地域、社会
- ひとりひとりの看護職
- 看護職が働く組織

実現を
加速させる
ための方法

臨床、政策・
行政、学術の
対話による
有機的な連携

制度設計

国民の理解・
認知度の向上

普及のための
ケアの標準化・
均てん化

データベース・エビデンスの構築 人材の育成、橋渡し

- ✓ 臨床、政策・行政、学術の連携で、
看護の可視化を加速する

Clinical, administrative, academic,
and policy maker partnerships
drive the visualization of nursing care!

- ✓ 持続可能な保健・医療の未来を支え、
EBPMに資するエビデンスを創る